

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-414-1833 FAX：053-438-7707

E-mail kohitsuji@imix.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松義人

印刷所：聖隷サービス(有)

定 価：一部 30 円

2011年7月20日

第 339 号

### 失われることのない希望へ

関係論にたつ福祉実践④

理事長 稲松義人

私たちは、幸せな生活（人生）について考えるとき、「どんな生活ができるのか」を考えることが多いように思います。どんな仕事をしたいか。どんな家に住みたいか。休みの日にはどんなことができるかを夢見て努力するのはないでしょうか。それは当然のことですし、確かに、それは生きていくための希望になると思います。

しかし、実際の生活（人生）は必ずしも自分の思い描いたとおりになるわけではありません。むしろ思い通りにならないことが多いのだらうと思います。そして場合によっては、自分が納得できないかたちで生活の基盤を奪われてしまうこともあるのです。東日本大震災で被災した方々は、程度の違いこそあれ、皆さんそのような境遇におかれているのだと思います。

報道をとおして、大災害の中でも日本人の冷静な行動を称賛する海外の論調があることを聞きました。それを受けて、日本人は自然災害については冷静に受け止めることができるのだという解説を聞きました。その解説者によると、加害者が人間であるときには日

本人は決して冷静になれず、かえってなかなか赦すことができず、そこから未来に踏み出していくことができないのではないだろうか、ということも述べておられました。

もし、そうだとすると、地震や津波による被災よりも、大震災による福島第一原発の事故による様々な影響のことをどう受けとめるのかの方が、日本人に突きつけられている大きな課題のような気がします。責任者は誰なのか、政府なのか、東京電力なのか。事故後の対応の不手際も含め、被災された人たちの憤りは大きいだろうと想像します。住み慣れた地域を追われ、生活の基盤を奪われ、健康への不安、今も全く将来の見通しが立たない状況におかれている人たちのこのやり切れない気持ち、こみ上げてくる怒りを、私たちはどう受け止め、向き合うことができるのでしょうか。将来に向けた新しい歩みをどう踏み出していくことができるのでしょうか。

話が変わりますが、皆さんはカネミ油症事件をご存じでしょうか。1968年に福岡県内で製造された食用油にPCBなどが混入し、それを摂取した人々に著しい健康被害をもたらした社会的にも無理解による悲しい人権侵害が起った事件です。私も水俣病とともに食品公害の事件として名前だけは知っていましたが、詳しいことは知りませんでした。先月、キリスト教社会

福祉学会で、このカネミ油症事件に巻き込まれた当事者の証言をお聞きする機会がありました。淡々と話される内容を聞き、今までその真実を知ろうとしなかったことを申し訳ないと思えました。しかし、支援する人たちとの出会い、被害者同士の連帯のなかから勇気をもって社会に訴えかけ、40年経った今もまだ身体の苦しみを抱えておられるのですが、新しい生活へ踏み出しておられる姿に、勇気を与えられました。たとえどのような境遇にあろうと、ともに生きようとする人たちとの連帯の中に自分を見いだし、立ち上がる勇氣をもち、明日に向かって新しい一歩を踏み出す力に、決して失われることのない希望を教えられました。

悲しみと苦しみの中に生きる人たちは、大震災の前から私たちの周りにもおられるのです。その苦しみを抱えて心を開くことのできない人たちがおられるのです。大震災に心を揺さぶられるのです。「つなごう！」と思った人たちが、社会の中にあるその小さな声に耳を傾けつづけ、ともに生きようとするなかにこそ、失われることのない本当の幸せを見出すことができるのではないのでしょうか。

社会の中で忘れられているような小さな命と「関わりつづける」ことの中にこそ、すべての命の意味があることを、小羊学園でもその実践を通して、伝えていきたいと願っています。

喜びをとともに

三方原スクエアの実践

三方原スクエア日中活動主任

紅谷 純



旧小羊学園から三方原スクエアに改築移転して、2年7カ月が経過しました。環境的には生活空間と活動空間とに分けられ、また職員の支援体制も各部署に分けた事により、現在は利用者にとって生活スタイルが明確になったと感じています。しかし移転当初の日中活動は利用者・職員共に新しい環境の中で戸惑いも多く、職員人数も十分に確保されない状況の中で慌ただしい毎日を送っていました。以前の小羊学園の頃より活動の中で大切にしてきた「散歩」も、そのような状況の中で十分に行なう事もできず、利用者にとっ

ては多くの負担をかけていた事と思えます。その後は、漠然的ではありませんが「散歩に出る機会をできるかぎり持つ」という目標を立てながら活動を行ってきました。

このような経緯の中、職員間で日中活動支援の体制の見直しについて検討し、利用者にとっての日中活動の意味や目的を明確化することで、少しずつ日中活動を改善していく事ができました。検討の中では、日中活動を利用者の目線で考えた時にどんな目的や意味があるかというような様々な意見交換や基本的な利用者理解、それを踏まえた実際の支援内容の確認、職員の質の向上など、見直す点が沢山挙がりました。これらの課題については職員間で確認を丁寧にしてゆく事で、日課の組み立て方や活動の見直し、活動提供のためのグループ化など、実際の支援に置き換えつつ、より良い支援に近づく事ができてきたと感じています。

現在、三方原スクエアの日中活動には、成人部の入所利用者と、三方原スクエアが運営する3か所のケアホームの利用者、また在宅の利用者など、合わせて55名程の方が通って来ています。人数規模が大きいため、活動拠点としては、「みらい」という施設外にある作業所に通う自閉的傾向の見られる方が中心のグループ、「山浦邸」という近隣の一般住宅を利用しての地域の住民の方との交流を中心に活動を行なう

グループ、三方原スクエア内の日中活動スペースで行うグループの3か所に分かれて行っています。各グループで行なう活動内容も利用者の能力や特性に応じて異なります。三方原スクエアの利用者は比較的障がいの重い方が多くいますが、利用者にとっての日中活動の位置づけを大切にしながら、活動で製作した物を製品化し、バザーや催し物などの機会に販売も行っています。現在の活動状況も決して十分とは言えず、沢山の課題はありますが、日中活動としての職員のチームワークを生かしながら、利用者の支援を今以上に豊かなものへと近づけるように努力しています。また、近年では利用者の高齢化や障がいの重度化、機能低下という大きな課題も見られてきている中、利用者の状態に合わせた活動内容の検討もおこない、幅の広い視野で利用者の生活を支えようと考えています。

近年、障害者福祉の制度も大きく変わり、その中で地域生活や利用者の生活の職住分離などが提言されてきていますが、前述した通り、小羊学園は以前から日中活動や活動場所に通うスタイルを大切に考えてきました。その形が今の三方原スクエアなのだとは感じています。現在の課題も踏まえつつ、今後は活動場所をもっと地域に密着した場所に作り、地域住民の方々と関係を持ちながら活動ができればとも考えています。

「みらい」は三方原スクエアから西へ2キロほど離れた場所にある活動場所、主に自閉症の方が通っています。利用者は三方原スクエアの入所者9名とケアホームから1名、在宅から1名の合計11名で編成されています。活動内容は、体力作りを中心とした散歩や山登り、アルミ缶つぶし、それとは逆に室内で落ち着いて座って行なうビーズプレスレット製作作業が中心です。アルミ缶つぶしは、自閉症の方が最も理解しやすく、視覚的にも分りやすい単純な内容で皆さん積極的に取り組んでいます。缶の形にこだわる方、自分の好きなように並べてからつぶす方、好みの缶から順番につぶす方など取り組み方は様々です。ビーズ作業は穴のあいたプラスチックのビーズをナイロンの紐に通してプレスレットに仕上げる作業です。この作業には手先の器用さや気持ちの落ち着き、集中力が必要とされるため、個々の性格や能力、ペースを理解した上でビーズの量を設定し、一人ひとりに合った活動道具を提供するなどの配慮をしながら製品作りに取り組んでいます。

入所利用者の他に、在宅の日中一時利用者や短期入所利用者が利用する事も最近では増えているため、実際の利用者人数は多い時には15人程になる事もあります。みらいは自閉症の方を中

自閉症の方が通う「みらい」



心とした活動場所ですが、そのような方達のニードも多い事や、自閉症に限らずいわゆる広汎性発達障がいという障がい像への対応も必要になってきている事を含めて、専門的な受け皿として活用できればと思います。しかし、現在のみらいの環境では限界もあるので、今後環境的な整備も進めてゆき、支援する職員の専門性や資質の向上にも努めていきたいと感じています。

**地域との「コミュニケーション」  
大切に「山浦邸」**

「山浦邸」は小羊学園を創設された故山浦俊治夫妻が生前にお住まいになっていた住宅をお借りして活動を行って

いるグループです。現在、三方原スクエア入所者7名とケアホーム利用者2名の合計9名で活動を行なっています。

主な活動内容は、廃品回収、畑、シューズキーパー作り、ビーズ通し、アルミ缶つぶしです。廃品回収は、事前に回収日をお知らせするビラを配布し、廃品を回収する中で地域住民の方々との交流を楽しみながら行なっている活動です。地域住民の方から「いつもご苦勞さま」と声を掛けて頂くと嬉しくなっています。これで全部か？と聞く方、手を繋いで一緒に行きたいと訴える方など、それぞれがやりがいを持っていて行なう姿も見られます。地域住民の方々にはこの活動を大変良く受け止めて下さり、時には果物や野菜を頂くこともあります。畑作業では青空の下、個々がのびのびと自然に触れながら作物ができる喜びを感じたり、草取りや水まきも一生懸命行なっています。畑で採れた野菜は販売したり調理しておいしく頂いており、自然の恵みに感謝しながら楽しく活動しています。雨の日には廃品回収や畑に行けずに残念そうな様子を見せる利用者もいますが、室内活動のアルミ缶つぶしやビーズ通し、シューズキーパー作りも行い、気分転換も図りながら楽しく活動に取り組めるよう工夫しています。

スクエアの居住空間から外に出て活動場所に行くという事は、私達に置き換えれば仕事に行くという事と共通し

ますが、そんな気持ちで利用者から感じ取られる場面も多くあります。現在の課題としては建物が老朽化しており、活動場所として環境整備の必要性が挙げられます。利用者の気持ちや通う意味も大切にしつつ環境整備も検討してゆきたいと思っています。



**三方原スクエアの日中活動**

三方原スクエア内にある日中活動スペースでの活動は、利用者人数が多いため5つのグループに分けて1グループ8〜10人での活動を行っています。

三方原スクエアは生活部分がユニット制となった事で、利用者の生活単位も少人数での分散した生活になりました

た。これに対して日中活動でのグループ分けは、以前の小羊学園で行なっていた時のグループメンバーを中心に、これまで築かれてきた仲間意識を大切にしたいという観点を大切にしながら編成されました。グループごとにメインとなる活動があり、染物、折り染め、ハガキ作り、フェルト作り、ステンシル、ハウスキーピングと様々で、各作業内容によって利用者の役割が設定されています。ハガキ作りでは、ミキサのボタンを押して振動や中身がグルグル回るのを見て楽しんだり、水切り行程ではローラーを上手に転がして行なってくれています。折り染めでは、自分で染める液の色を選んだり、和紙を広げた時に綺麗な配色を見て達成感を味わっています。ステンシルでは、木片へペイントしマグネットを作成しています。細かい色付けなのでペイントする場所が小さくなると利用者は戸惑いますが、完成していく行程を一緒に行なう事で完成した喜びを笑顔で表現してくれています。ハウスキーピングは利用者の洋服類を洗濯・乾燥し、ユニットごとへの仕分けと運搬が中心となる仕事で、主にケアホームの利用者が担っています。この仕事は給料制になっているので責任や目的が伴い、利用者の様子を見ても仕事に対しての積極性や継続性が感じ取られます。

三方原スクエアへ通う利用者は比較的障がいの重い方が中心となっていま



すが、近年の状況としては身体的機能の低下や高齢化に伴う対応が課題となっています。食事形態が嚥下食に変わった方や歩行が出来なくなってきた方など、一人ひとりの状況に合わせ支援内容も変化してきています。機能低下、体力低下が進む中、医療的なケアも必要になってくるケースもあります。スクエアの日常活動は、利用者の健康状態に配慮しつつ、その時の個々の体調に合わせた日課を組み立て、チームワークで連携していきたいと思っております。

## わかぎ夏祭り

日時 23年7月30日(土) 18:00~20:00  
 ところ 支援センターわかぎ 駐車場  
 イベント 盆踊り、花火、模擬店(たこ焼き、塩焼きそば、カキ氷、ワラビ餅)  
 問合せ 支援センターわかぎ  
 ☎053-587-2614

## 三方原スクエア夏祭り

日時 23年8月5日(金) 16:00~18:30  
 ところ 三方原スクエア 正面駐車場  
 イベント フラダンス、ヨーヨー釣り、輪投げ、模擬店(カキ氷、流しそうめん、チョコバナナ、人形焼き等)  
 問合せ 三方原スクエア  
 ☎053-414-1883



## 平成22年度共同募金受配報告

つばさ静岡「わたぐも」(A型通園事業)では、活動室の日よけテントを受配しました。午後になると強い日差しが差し込み、利用者の方が横になれる場所が限られるような状況が続いていました。これまではよしずを掛けて対応していましたが、風が吹くたびに片付けるなど不便でした。早くも真夏の日差しが続いている毎日、大変助かっています。ありがとうございます。

共同募金受配額	1,050,000円
自己資金	430,500円
取り付け工事費	1,480,500円
オーニングテント取り付け工事	



## 編集後記

東日本大震災の復興が急がれる昨今、日本の舵取りが揺らぎ、政治より政局ばかりが取りざたされている。一方、障がい者施策は25年8月施行予定の障害者総合福祉法(仮称)制定に向けて、制度推進会議が各部会の取りまとめに入ってきている。部会には有識者はじめ当事者代表者も参加し、生の声を施策に反映できるよう尽力されているようだ。福祉に従事するものとして望むことは、舵取りをする国がご本人の幸せを第一義に考え、ぶれない施策であって欲しいことだ。少なくとも、今の政局のようにならないことを、本格的な夏の到来です。暑さ対策をしっかり行い、お元気で過ごされることを祈ります。(F)

## 小羊学園を支える会

2011年度寄付金報告  
 6月受付分 390,000円 (24件)  
 累計 887,650円 (65件)  
 小羊学園への寄付金振込み先  
 (口座名義)「小羊学園を支える会」  
 郵便振替口座 00890-4-45415  
 リソナ銀行浜松支店 (普通) 040005  
 静岡銀行細江支店 (普通) 043483  
 ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。  
 小羊学園を支える会事務局(鈴木)  
 三方原スクエア内 ☎053-414-1833